

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26350080

研究課題名(和文) ベトナム中部ホイアンの伝統衣服に関する研究

研究課題名(英文) Study of the traditional clothes in Vietnam Hoi An

研究代表者

下村 久美子 (Shimomura, Kumiko)

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：80162816

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ベトナム・ホイアンにおける現地調査により、ベトナムの伝統的な衣服について、時代による形の変遷、葬祭時の着慣習、伝統的染色方法の特徴を明らかにすることを目的とする。ホイアンは古い街並みが保存されているベトナム中部の観光地で、伝統的な衣服の縫製に詳しい高齢者が多い。調査の結果、これまで調査してきたベトナムの伝統的的衣服であるアオ・ザイ、アオ・ババ、クアンのデザインの変化や裁断方法および縫製過程を明確にすることができた。また、葬儀用の衣服を製作していた仕立業者から、死者や親族の衣服の形式と着慣、しきたりについて調査した。さらにタンチャウでは、黒檀の実を使用した伝統的な染色手法を記録した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we aimed to study on changes in design of Vietnamese traditional clothes with times customary funeral attire and traditional dyeing in Hoi An, which is a famous old town for sightseeing in middle area of Vietnam. Many elderly people, who are familiar with sewing of traditional clothes, live in Hoi An. The construction and the sewing process of ao dai (ceremonial outerwear), ao ba ba (upper wear) and quan (bottom wear), and the changes in design were surveyed by interviewing there. We also studied the traditional clothes of the dead and the relatives and the customary wearing in funeral ceremony by interviewing an old tailor who had made traditional funeral clothing. In addition, we studied the traditional dyeing method using ebony fruits in Tan Chau.

研究分野：複合領域

キーワード：ベトナム 伝統的的衣服 アオ・ザイ アオ・ババ クアン 黒檀の実 染色 葬儀用の衣服

## 1. 研究開始当初の背景

ベトナムでは経済的発展やグローバル化を背景として伝統的衣装が失われつつあり、衣服文化の観点からその調査は急務である。

2005年～2012年に、昭和女子大学国際文化研究所のプロジェクト「ベトナム伝統農村集落地域比較研究と保存」で、ベトナム北部ドゥオンラム村、中部フックティック、南部フーホイ、カイペーの各農村部にて、伝統的衣装について現地調査を実施した。

また、2009～2012年には伝統的衣装が比較的多く現存するドゥオンラム村の伝統衣装調査を服飾グループのみで実施した<sup>①</sup>。これらの調査では、ベトナムの伝統的衣装の種類や形式の変化、着装、被り物や髪型、繊維素材や染色材料などについてそれぞれの地域の特徴が明らかとなった。

その後、2013年にホイアンの絹に関する調査を実施し、2014年～2017年に本研究テーマに取り組んだ。

## 2. 研究の目的

### (1) 伝統的衣装の調査

伝統的衣装の上衣のアオ・ザイ、アオ・ババ、下衣のクアンについては、本研究以前に行なった農村部において、アオ・ザイの丈の長さや立ち衿の形の変化、アオ・ババの衿ぐりや袖の形式の変遷、クアンの構成および裁断方法や縫製の過程などについて調査してきた。本研究の調査対象であるホイアンは、観光を主産業とする市街地で縫製店も多く、かつて伝統的衣装の仕立てをしていた高齢者や縫製の指導者が複数いるため、伝統的衣装の構成や形式の変化について詳しく聞き取りを行ない、伝統的衣装の形が変化した時期や変化した理由、寸法を明らかにする。また、得られた情報をもとに、古い型式で仕立てられた高齢者が所有する伝統的衣装を調査する。

### (2) 伝統的な葬儀用の衣装

ホイアンでは1990年代以降は葬儀社が死者の衣装などを用意するようになっており、親族もアオ・ザイなど伝統的な衣装ではなく、洋装で葬儀に参列する習慣に変化している。そのため若い世代は葬儀用の衣装を把握していない。そこで、ホイアンで伝統的な葬儀用の衣装を仕立てていた高齢者から、葬儀時の死者の衣装と親族の衣装、しきたりについて調査する。

### (3) 黒檀の実を用いた染色

ベトナムの伝統的な下衣であるクアンに用いられた生地はおおむね黒で、中でも南部カイペーのクアンは、黒く艶のある生地が使用されていた。ホイアン調査中にその布は黒檀の実で染色されていることがわかり、現在でも染色している工場を訪れる機会を得たので調査する。

なお、本研究の「伝統的衣装」とは、国・地方に伝わる固有な衣装で実際に着用されて

いる衣服、または個人が所有している衣服を指す。この定義は1928年から1985年まで世界各地で民俗衣服を収集した田中薫(地理学者)・千代(服飾デザイナー・服飾研究家)夫妻の「伝統的民俗衣服」の呼び方に準じている<sup>②③</sup>。

## 3. 研究の方法

(1) ベトナム中部ホイアンの遺跡管理センターの協力のもとで、縫製に詳しい高齢者や古い伝統的な衣服を所持している高齢者に通訳を介して聞き取り調査を行なった。調査内容は伝統的な衣服の構成、形式、着装の変化の時期、裁断方法、縫製手順、染色材料や染色法などについてである。

住民が所持している古い伝統的な衣服については、衣服の実測を行なった。また、伝統的衣装の仕立てを行っていた高齢者に製作させた古い型式のアオ・ババとクアンについては、その構成や寸法を詳細に記録し、裁断および縫製手順を調査した。

(2) ホイアンで縫製技術を身につけ、1970年頃から1990年位まで伝統的な葬儀時の衣装を製作していた仕立屋から、ホイアンの古い習慣による葬儀用の死者の衣装と親族の衣装やしきたりについて聞き取りを行なった。また、この仕立屋に製作させた死者の衣装一式を用い、その着装方法を調査した。

(3) ホーチミンから西250Kmに位置するアンザン省タンチャウ村の染色工場で、黒檀の実を用いた伝統的な染色過程を調査し、さらにこの布の消費性能を検討した。タンチャウ村で染色された布は、ホイアンにおいても高級な布として扱われ珍重されていた。なお、本研究は、昭和女子大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:14-13)。

## 4. 研究成果

### (1) 伝統的衣装の調査

#### ①アオ・ザイ

アオ・ザイは丈の長い上衣である。幅の広いズボンであるクアンの上の着用し、ベトナムの代表的な伝統衣装として広く知られており、若い世代においても晴れ着、儀礼用として着用されている。

アオ・ザイのデザインは、その時代の流行が見られる。袖の形式は裁ち出し袖からラグランスリーブに変化してきた。ホイアンでは南北統一(1975年)前後からラグランスリーブが多くなったようである。また、ホイアンでは古いタイプの裁ち出し袖から、現在のラグランスリーブのシルエットに移行する時期のアオ・ザイを確認することができた(図1)。このアオ・ザイは1968年に行なわれた結婚式の花嫁のものである。当時この花嫁は仕立業をしており、自分のために最新のデザインにしたということである。裁ち出し袖であるが、

前中心の縫い目は無く、胸とウエストにダーツがある。



図1 1968年の花嫁のáo dài

ラグランスリーブは身頃と袖幅のゆとり量が少なくても腕を上げることが出来て美しいことと、裁断の方法の違いから裁ち出し袖よりも布量が少なくても良いことから女性のáo dàiはラグランスリーブに変化したと考えられる。

ベトナム中部と南部の聞き取り調査によると、女性のáo dàiの丈と立ち衿の高さは流行によって変化しているようである。衿の高さは、ベトナム統一(1975年)前は6cm程度であったが、1980年代は1～2cmになり、2000年頃からは3cm程度になっているということである。

## ②áo dài

áo dàiは、外出時や来客の際に着用される長袖で腰までの丈の上半身用衣服である。áo dàiの基本の形は、衿なし、長袖、前開きで、両脇にスリットがある。丈は少し長めの腰丈である。ネックラインの形は、元は頸付け根に沿わせた丸形であったが、現在は前の開きが少し深いハート形、Yネック等がある。袖の形式については、áo dàiと同様に元は裁ち出し袖であったが、現在ではラグランスリーブ、少数例としてセットインスリーブがある。前の2つのポケットの有無、前の留め具がボタンかスナップか等については、地域による違いがある。日常着用しているのは70歳以上の高齢女性であるが、2014年の調査時には、商業地のホイアンでは高齢者でも着用している人はあまり見かけなかった。

2014年に伝統的衣装の仕立屋で製作した女性用の裁ち出し袖とラグランスリーブのáo dàiを図2-1、2に示した。現在の若い女性向けのáo dàiの特徴として、ラグランスリーブの幅は一般的な洋服の場合よりも

細いことが挙げられる。身頃の袖ぐりの深さを浅くすることにより袖ぐり寸法が小さくなるので袖幅を細くすることができる。



図2-1 現在のáo dài (裁ち出し袖)



図2-2 現在のáo dài (ラグランスリーブ)

## ③クアン

クアンは、ベトナム北部、中部、南部の男女ともに着用する伝統的な下衣であり、áo dài、áo dài、áo dài、áo dàiなどの伝統的な上衣と組み合わせて着用する。現在では、中・若年層はいわゆる洋服のズボンやジーンズを着用するが、農村部の高齢者の多くは現在でも伝統的なクアンを日常的に着用している。

伝統的なクアンは、全体にゆったりとした仕立てで、股の中央に接ぎ目のある洋服のズボン形式のものと平面裁断で腰部から脚部にかけて接ぎ目のあるクアンに分類できる。後者の接ぎ目のあるクアンは、さらに接ぎ目が前・後各1本のもの、2本のものに分類でき、いずれも直線構成で、裁断・縫製により股下部分がバイアスになるのが特徴である。接ぎ目が2本の場合は布幅の狭い(30～40cm)ものでも製作が可能であるが、接ぎ目が1本の場合は広幅の布(80～90cm)が必要である。布幅との関係から伝統的なクアンの形式は、脚部の接ぎ目が前・後に各2本のものから、接ぎ目が1本のものになり、そして股の中央に接ぎ目のあるズボン形式のクアンへと変化したことが確認できた。

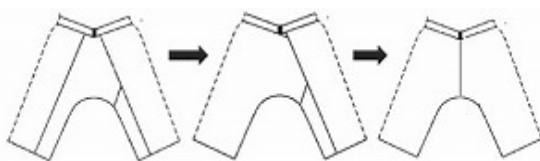


図3 クアンの型式の変化

現在は仕立屋に接ぎ目のある伝統的なクアンを注文する客はほとんどおらず、接ぎ目のあるクアンは製作されていないことから、伝

伝統的な接ぎ目のあるクアンを仕立てることで  
できる技術者はごく少数である。

また、伝統的な接ぎ目のあるクアンを作  
ることができるという少数の仕立屋の中  
でも、腰部に小さな三角布をはめ込むク  
アンについて知る者はごく僅かであり、  
この最も古い形式のクアンを製作する  
ことができるのは現在ではごく限られ  
た熟練者のみであることが明らかとな  
った。これらの伝統的なクアンの裁断  
法、縫製技術は次世代には継承されて  
おらず、現高齢技術者とともに消え去  
る運命にあり、後世に伝えるための記  
録・保存が急務であることが確認でき  
た。



接ぎ目が1本



接ぎ目が2本

図4 クアンの裁断布

## (2) 伝統的な葬儀用の衣服

葬儀用の衣服について、本研究以前に行な  
った調査は、中部フォックティック村が所有  
する葬儀様の衣服調査と、南部フーホイ  
での親族の衣服を所持していた住民からの  
聞き取りによる調査でいずれも断片的であ  
った。ホイアンでは、葬儀用の衣服を縫  
製していた仕立屋から、死装束や親族の  
衣服、しきたりについて調査することが  
できた。ベトナムでは、現在都市部では  
葬儀への参列に、親族でも洋装で参列  
することが多くなっており、伝統的な  
葬儀用の衣服や、しきたりについての  
調査は意義のあることである。

### ① 伝統的な死者の衣服

死者には白色の麻のアオ・ババとクアン、  
その上に赤いアオ・ザイを重ねて着用さ  
せる。ただし、1枚で着用させる場合は、  
内側は白、外側は赤色のアオ・ザイを  
着用させる。手足

は、指のない白い手袋と靴下を履かせる。  
目は眼鏡状の袋に砂を入れ、目に被せる。  
頭には、内側は白、外側は赤の布を使用  
する。図5は伝統的な死者の着装と、遺  
体を棺に運ぶ際の紐のかけ方を再現した  
ものである。この紐の数は、男性は7本、  
女性は9本の紐で結んで移動する際に  
使用する。紐の数は男性が7つの命、  
女性は9つの命を持つとする信仰によ  
るものであるとのことである。棺には枕  
が設置されており、納めた後首に砂袋を  
被せる。

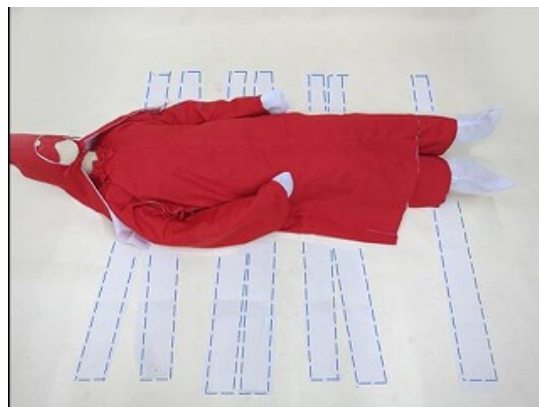


図5 伝統的な死者の衣服

### ② 伝統的な親族の衣服

長男は麻や綿素材の白いアオ・ザイとク  
アン、白い帽子ムー チョンナムを着用し、  
頭には藁の輪を被り、腰には藁の紐を巻  
いた。アオ・ザイの縫い代は、両親の片  
方が存命の場合は前身頃の縫い代を外  
側に出し、両親共に亡くなった場合は、  
後ろ身頃の縫い代も外側に出す。また、  
長男は父親が亡くなった場合には竹の  
棒を、母親が亡くなった場合にはボン  
(竹に近い植物)の棒を持つ。死者の  
妻、長男以外の息子、息子の嫁、未婚  
の娘は、長男と同様に縫い代を外側に  
した白いアオ・ザイを着用する。死者  
の親族のうち、長男とそれ以外の親族  
では持ち物が異なる。また、結婚し  
た娘は普通のアオ・ザイを着用する。  
結婚した娘は親族であるが、他家の  
者であることを示していると考えられ  
る。

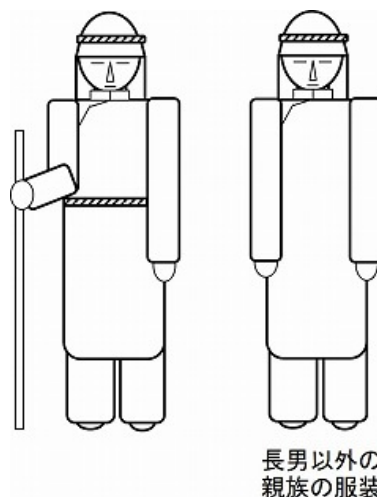


図6 葬儀での伝統的な親族の衣服

### (3) 黒檀の実による伝統的な染色

本研究以前のベトナム南部での衣服調査では、図7に示すような、黒く艶のある素材のクアンを確認していた。ホイアンの調査時にその染色には黒檀の実が使用されていることがわかり、染色工場を訪ねる機会を得たため、この布の染色方法を調査し、消費性能を調べた。



図7 黒く艶のある素材のクアン(南部カイバー)

黒檀の染色が行われている場所は、ベトナム南部アンザン省タンチャウである。メコンデルタに位置しカンボジアの国境に近く、カンボジアとの商業上の交流も盛んであった。この地域では黒檀の実を用いて黒色に染色した布がかつては盛んに生産されていたが、現在この染色を行なう工場(タム・ラン・シルク)は一軒しか残っていない。この工場で、黒檀を用いた伝統的な黒色の染色方法を調査した。方法は以下の通りである。

黒檀の実を水と共に潰して染液とする。この染液は新鮮なものでなければならない。絹布を染液に浸け、日光に曝す(干す)を数日間繰り返した後、染色した布を川で洗う。その後、布を巻き取り、水分を含ませ、布の裏となる面を錘で叩く。1kgの未染の絹布が2.2kg程度になるまで、この作業を繰り返し、染料を付着させる。

この染色の全工程は通常一ヶ月弱繰り返されることである。染色工程の終盤では染色作業を続けてもそれ以上には染料は付着しない状態となり、染料はほぼ飽和状態で繊維に付着していると推測される。最終工程では染色した絹布を洗剤で洗い、布の両面を叩き、アイロンをかけて仕上げる。なお、調査で見られたクアンは朱子織であったが、工場では斜文織の絹布も同様に染色されていた。

また、この布の染色堅ろう度を測定したところ、日光、汗、洗濯等に対する堅牢度は4~5級で堅牢であったが、摩擦のみが1~2級であった(図9)。

化学染料による染色に比べて、染色された絹布は、染料が繊維に厚く付着しているため独特の風合い、ドレープ性、なめらかさもっていた。黒檀を用いた染色は非常に労力がかかるためこの染色を行なう職人・工場は既

に希少であるが、助剤等を使用せず、非加熱で黒檀の実のみで染色する伝統的技法である点で保存価値のある興味深い染色法であると考える。



図8 黒檀の実を用いた絹布の染色工程  
(1)黒檀の実 (2)黒檀の実の搾液 (3)染色  
(4)染色布の絞液 (5)日光下で干す  
(6)水洗 (7)染色布を叩く

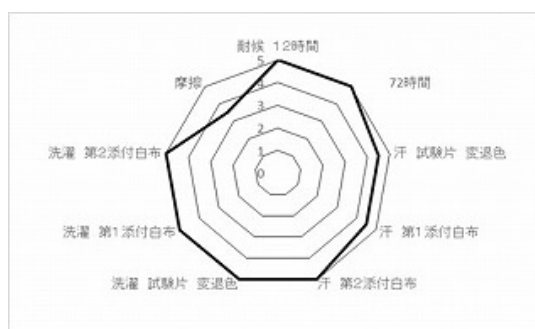


図9 黒檀で染色した絹布の染色堅牢度<sup>④</sup>

#### <引用文献>

- ① 科学研究費補助金 基盤研究(C) 一般(2009~12年)課題番号 21500740 ベトナム集落における伝統衣服の研究 代表者 谷井淑子
- ② 田中薫、田中千代、世界の民俗衣服、初版、東京、日本図書センター、(2011) これは、次の図書の復刻版である。田中 薫、田中千代、原色世界衣服大図鑑、初版、保

- 育社、大阪、(1961)
- ③ 田中千代、世界の民族衣装—装い方の知恵をさぐる—、初版、平凡社、東京、(1985)
- ④ 細谷美帆、小原奈津子、下村久美子、ベトナムの南部に伝わる黒檀の実を用いた絹の染色、一般社団法人日本家政学会第 69 回大会 (2016)

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Kumiko Shimomura, Yoshiko Tanii, Mieko Inomata, Nastuko Kohara, Clothing habits of Phu Hoi, Hamlet Surver Report Phu Hoi Village, Dong Nai Province Socialist Republic of Viet Nam, Nara National Research Institute for Cultural Properties, 査読無, 140-148 (2018)
- ② 下村久美子, 谷井淑子, 猪又美栄子, 小原奈津子, ベトナムの伝統的衣服, 昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、Vol. 24、(2018)
- ③ 下村久美子, 谷井淑子, 猪又美栄子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的衣服に関する研究 - 2014 年、2015 年の調査から -, 昭和女子大学学苑 環境デザイン学科紀要、査読有、第 909 号、52-61 (2016)
- ④ 谷井淑子, 猪又美栄子, 小原奈津子, 下村久美子, カイベー村の衣生活, カイベー・ドンホアヒエップ村集落調査報告書, 昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、Vol. 20、148-156 (2014)

[学会発表] (計 10 件)

- ① 猪又美栄子, 谷井淑子, 下村久美子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, アオ・ザイの変遷, 一般社団法人 日本家政学会第 69 回大会 (2017)
- ② 下村久美子, 谷井淑子, 猪又美栄子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的な葬儀用の衣服について 第 2 報、一般社団法人日本家政学会第 69 回大会 (2017)
- ③ 細谷美帆、小原奈津子、下村久美子、ベトナムの南部に伝わる黒檀の実を用いた絹の染色、一般社団法人日本家政学会第 69 回大会 (2016)
- ④ 谷井淑子, 下村久美子, 猪又美栄子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的な下衣 (クアン) について—ベトナム中部の調査から—、一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2016 年年次大会 (2016)
- ⑤ 細谷美帆、小原奈津子, 下村久美子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的手法により黒檀を用いて染色した絹布の消費性能、

一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2016 年年次大会 (2016 年) 56-57

- ⑥ 相島雪乃, 細谷美帆, 小原奈津子, 下村久美子, Phan Hai Linh, ベトナムタンチャウ村に伝わる植物を用いた絹の伝統的な染色、一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2016 年年次大会 (2016)
- ⑦ 下村久美子, 谷井淑子, 猪又美栄子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的な葬儀用の衣服について、一般社団法人日本家政学会第 68 回大会 (2016)
- ⑧ 猪又美栄子, 谷井淑子, 下村久美子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的衣服アオ・ザイとアオ・ババの変化について -ベトナム中部のホイアンの調査から-, 一般社団法人日本家政学会第 68 回大会 (2016 年)
- ⑨ 谷井淑子, 猪又美栄子, 下村久美子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナムの伝統的な下衣 (クアン) の構成について、一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2015 年年次大会 (2015)
- ⑩ 下村久美子, 猪又美栄子, 谷井淑子, 小原奈津子, Phan Hai Linh, ベトナム中部ホイアンの伝統的衣服に関する研究、一般社団法人日本家政学会大会第 67 回大会 (2015)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

下村 久美子 (SHIMOMURA KUMIKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号:80162816

(2) 研究分担者

谷井 淑子 (TANII YOSHIKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号:10095929

猪又 美栄子 (INOMATA MIEKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号:50184784

小原 奈津子 (KOHARA NATSUKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号:90178301

(3) 研究協力者

Phan Hai Linh  
ハノイ国家大学・人文社会科学大学・東洋学部日本語学科・准教授